

Q 2022年度の紐付マージンは、上期に先決め後の外部コスト上昇により一時的に後退し、下期に挽回した。足元の実態としての紐付きマージンの到達レベルとしては、今年度平均で見るべきか。また、来年度以降は紐付マージンを維持していくとのことだが、更に改善していく方向があり得るか。

A 説明資料17頁にある通り、2022年度下期の価格交渉では、上期に原料高により発生した一過的なマージン縮小を踏まえて交渉を行い、下期のマージンに反映出来た。

ここで2021年度に実施した陥没価格の是正について申し上げたい。原料価格の変動のみならず、商品の価値やお客様への貢献、安定供給等の付加価値・内外価格差等の総合的な観点から、適正価格に戻していただくべくお客様と個別に議論した。これにより世界一品質が良いのに世界一安いと言われた当社の鋼材が2021年度下期のレベルでようやく世界標準まで回復した。2022年は年度でほぼこのレベルを維持出来る見込み。

マージンの維持拡大は、不断の努力として取り組むもの。当社がコントロールできない外部コストをサプライチェーン全体で応分に負担いただくということだけでなく、当社の商品・サービスが持つ付加価値を認知いただき、それを訴求していくことも重要であり、そのためには我々の品質や提案力を向上させていくことが必要。更に、注文構成の高度化を進め、限界利益構成を上げることによるマージン拡大にも引き続き取り組む。

Q 品種構成の高度化、数量に頼らない収益力強化を説明いただいたが、そのカギとなる電磁鋼板の能力・品質向上対策投資の一部が次年度上期に立ち上がる。今後、どういう形で電磁鋼板のグローバル需要に应运っていくのか。例えば国内と輸出の比率や、今後更なる能力増強が必要になるのかなど、ご解説頂きたい。

A 国内・輸出の比率、向け先、需給などは、戦略に関わるのでコメントを控えさせていただく。エコカーなどに用いられる駆動用のモーターの鉄心に使用される無方向性電磁鋼板や、電気を家庭や工場に送るための変圧器などに使用される方向性電磁鋼板など、電気が使われているところでは電磁鋼板が必要となる。電磁鋼板の供給能力はひっ迫しており、お客様からの能力増強要請が非常に強く、他社含め能力増強が続くと思う。当社も更なる増強対策を検討しなければならない。

◆NSCarbolex® Neutral

Q NSCarbolex® Neutralをどういう売り方で収益貢献に繋げていこうとしているのか。例えばコスト以上にプレミアムをとるなど、考え方を教えて欲しい。

A 脱炭素の流れの中で、例えば自動車業界では、電気自動車はガソリン車と明確に異なる商品なので、商品価値が変わり価格が上昇する。グリーンスチールは、鋼材の機能は変わらないが、鉄鋼製造プロセスにおけるCO₂排出量が削減されるという付加価値があると考えている。こうした価値を社会全体が理解・受容し、どう受け止めていくかという議論が継続しており、ご理解を得ていかねばならない。

すべての鉄が完全なグリーンスチールになるまで鉄鋼業界はカーボンニュートラルに対して何もしないのかということ、勿論そうではない。カーボンニュートラル社会の実現に向け、革新的技術の開発を含めた、製鉄プロセスの脱炭素化に取り組んでいる。そのような中、当社においては、2023 年度上期に当社の広畑電炉がフルアップするが、これにより削減したCO₂ 排出量を割り当てることで、鉄鋼製造プロセスにおける CO₂ 排出量を削減したと認定された NSCarbolex® Neutral を、グリーンスチールを求めのお客様に販売していく。このような社会的仕組みの整備について関係官庁とも相談をしている状況。

◆AM/NS India

Q AM/NS India の余剰ガス売却の利益が来期出るとのことだが、その仕組み、今後継続するのかなど、ご解説いただきたい。

A LNG を使用する直接還元炉（ミドレックス）や発電設備を持つ AM/NS India は、LNG がコストの中で大きなウェイトを占めるので、ロシアによるウクライナ侵攻の前から、利益を得るためではなく操業やコストの安定を図るために、長期間のヘッジを行っている。2022 年の輸出関税賦課に伴う輸出数量減等により AM/NS India は減産となったが、これにより余剰となったヘッジ済 LNG を売却し、利益を計上する。ヘッジの実施および今般の売却は、コストを安定化させ、減産時には一過性の売却益で減産デメリットを回避する、経営安定性を踏まえた対応だと考えて頂きたい。

◆配当

Q 今期の配当性向 25%は、御社の配当方針（連結での配当性向 30%目安）の範疇ではあるがやや低い。来期減配しないという御社の考えの表れか。来期の配当は、実力利益が 6,000 億円を下回らなければ 180 円下限と考えて良いか。考え方を教えて欲しい。

A 今期の当期利益は過去最高となる見込みだが、期ずれ且つノンキャッシュである在庫評価益を 2,000 億円以上含むので、配当可能利益が実力以上に増加している状況と言える。

今期、高水準の利益を出すことで配当額としては過去最高水準となること、また来期以降も高水準の配当を維持したいという思いがあることから、今期の配当性向としては抑えめとさせていただきたい。来年度の配当がどうなるかは、今申し上げるのが難しい。これから来年度の見通しを作るが、しっかり社内で議論していく。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測などは、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。